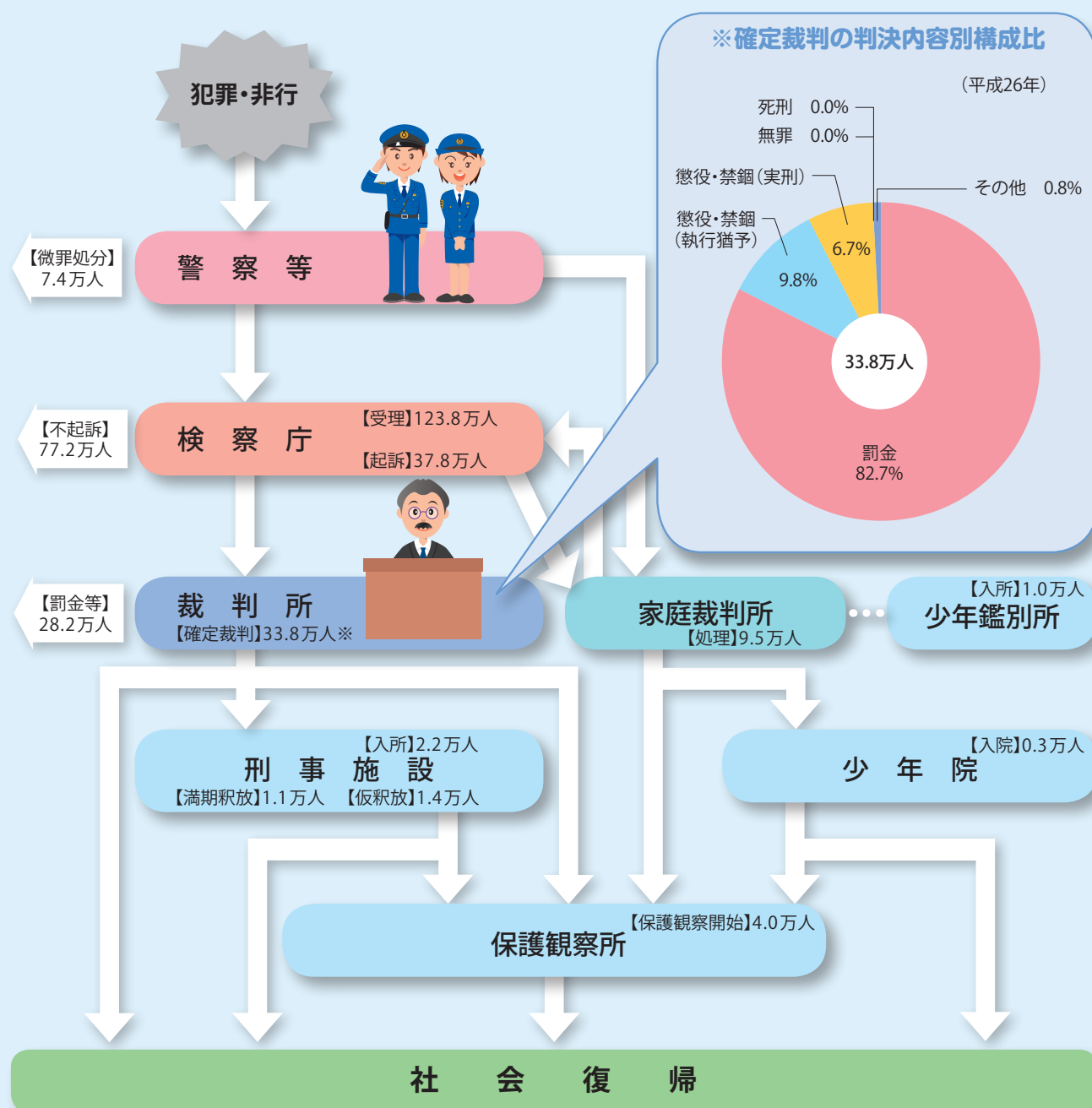


犯罪発生から罪を犯した人の社会復帰まで



刑務所・少年院を出所・出院した人たちの再犯・再非行を防止するためには、「居場所」と「仕事」が大切です。

そのため、刑務所・少年院や保護観察所では

- ・改善更生に適した生活環境づくりのための働き掛け（刑務所出所時の引受人との面接等）
 - ・帰る所がない者に対する出所・出院後の一時的住居の確保（更生保護施設・自立準備ホーム）
 - ・高齢受刑者や障害のある者に対する福祉への橋渡し（福祉施設入所等）
 - ・ハローワークと連携した就職や就労継続のための支援（刑務所出所者等総合的就労支援対策）
- など、住居や仕事を確保するための支援をしています。

地域の力で罪を犯した人の立ち直りを支えましょう。

更生ペンギンの「ホゴちゃん」



平成27年版 犯罪白書

～ 特集 性犯罪者の実態と再犯防止 ～

犯罪白書は、犯罪の発生から検挙、裁判、そして、罪を犯した人の社会復帰までの全過程の現状を統計データや資料を基に解説しています。

また、犯罪白書は、毎年異なるテーマで特集記事を掲載しており、平成27年版の特集のテーマは「性犯罪者の実態と再犯防止」です。

この資料の詳しい内容をお知りになりたい方は**犯罪白書**をご覧ください。

- 書籍版（詳しいデータ所蔵のCD-ROM付）
- 電子版（法務省ホームページに掲載）

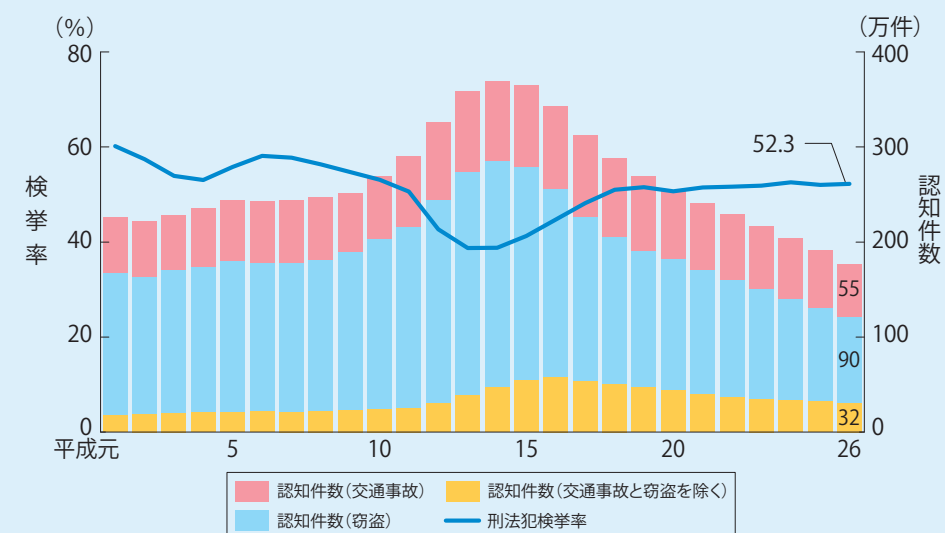


犯罪の動向

刑法犯の認知件数は、平成15年以降減少しており、26年は、戦後最多の14年から半減し、176万2,912件でした。

このうちの約半数は窃盗が占めていますが、窃盗の認知件数も平成15年以降減少しており、26年は89万7,259件でした。

刑法犯 認知件数・検挙率の推移

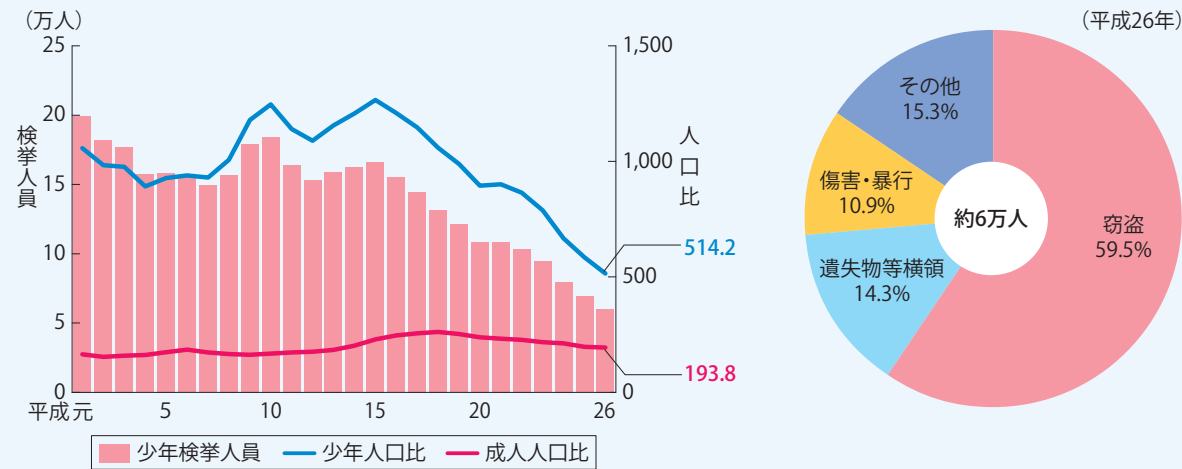


検察庁では、平成26年の1年間に、刑法犯、特別法犯124万人の事件を受理しました。

そのうち、約4分の3は交通事故・交通違反です。次に多いのが窃盗で、約1割を占めています。

少年非行の動向

刑法犯（交通事故を除く）少年の検挙人員の推移と罪名別構成比

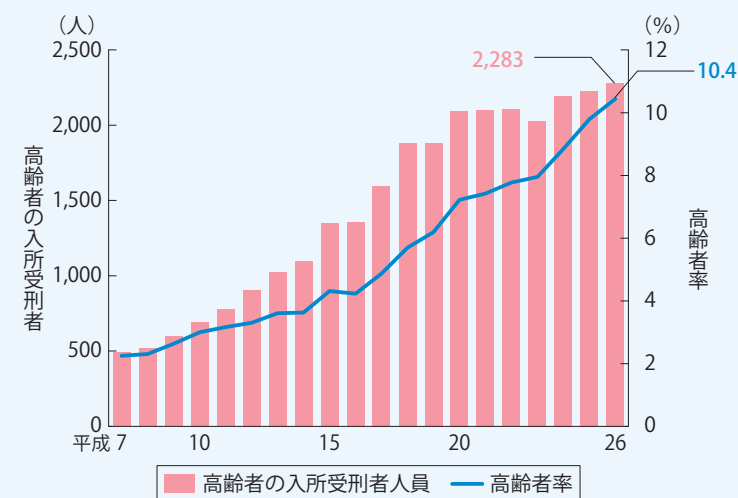


少年犯罪は、実数も人口比（10歳以上の少年人口10万人当たりの検挙人員）も減少していますが、少年人口比は成人に比べるとまだ高い割合です。
最も多いのは窃盗で、次に多いのが、放置自転車を勝手に持ち去るなどの遺失物等横領です。

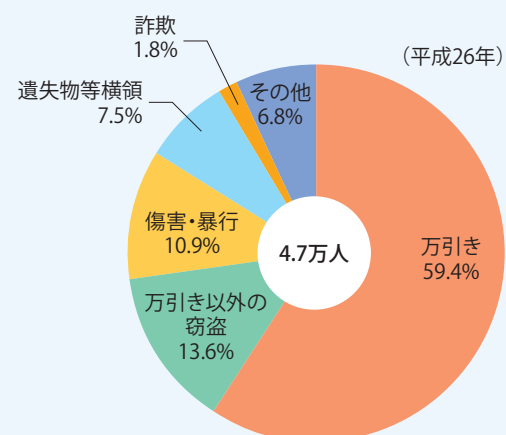
高齢者の犯罪

高齢者の検挙人員は、20年間で4倍以上になっており、検挙人員の増加は、高齢者人口の伸びを上回っています。また、高齢者の入所受刑者の人員も増加しており、平成26年は7年と比べて4.6倍に増加しています。
高齢者の犯罪は、他の年齢層の犯罪と比べて万引きなどの窃盗の割合が高く、特に女子の高齢者では、8割以上が万引きです。

高齢者の入所受刑者人員・高齢者率の推移



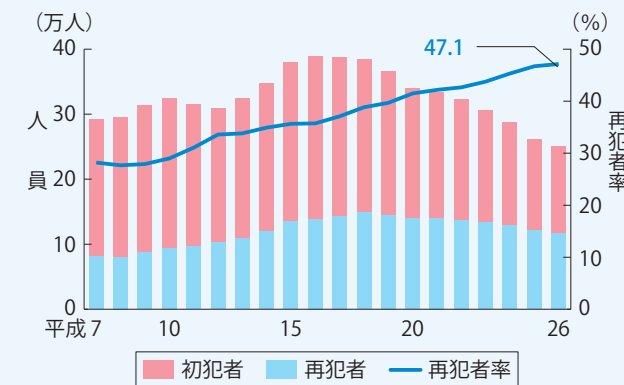
刑法犯（交通事故を除く）高齢者の検挙人員の罪名別構成比



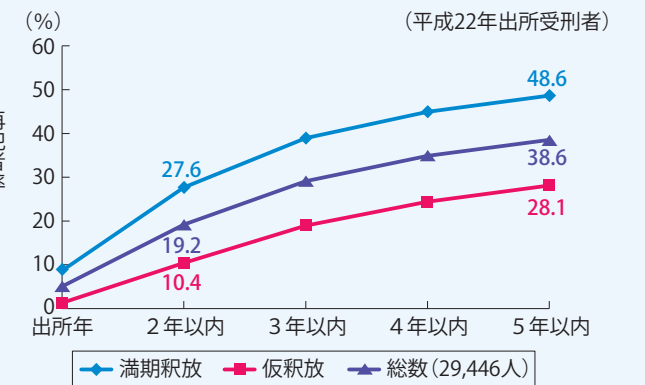
再犯の状況

刑法犯（交通事故を除く）で検挙された人の数は減少していますが、初犯者の減少の割合に比べ、再犯者（前に交通違反以外の罪を犯して検挙されたことがある者）の減少の割合が小さいため、全体に占める再犯者の比率は、平成9年から上昇しています。
刑務所出所者のうち仮釈放者の約3割、満期釈放者の約5割が、出所してから5年以内に刑務所に再び戻ってきてしまっています。

刑法犯（交通事故を除く）検挙人員再犯者人員・再犯者率の推移



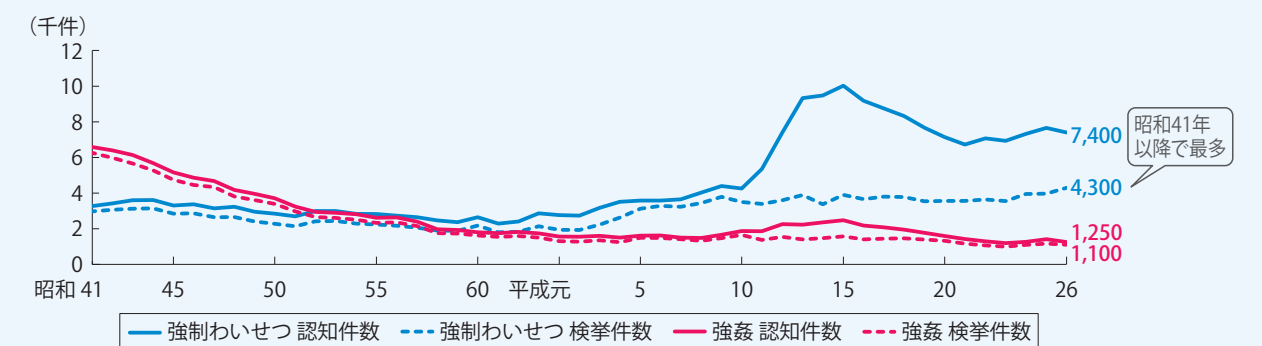
出所受刑者の5年以内累積再入率



性犯罪の動向

近年の認知件数を見ると、強姦は減少傾向にあり、強制わいせつは増加傾向にあります。

強姦・強制わいせつ 認知件数・検挙件数の推移



被害者のうち、未成年者の割合は、強姦で約4割、強制わいせつ（女子）で約5割、強制わいせつ（男子）で8割以上と高くなっています。

被害者の年齢層別構成比

